

# 活躍する専門技術者に聞く③

おかだ やすひろ  
**岡田 靖浩 氏**（ヨシダ・テクノ株式会社）



岡田 靖浩（おかだ やすひろ）氏

第3回はヨシダ・テクノ株式会社（栃木県上三川町）に所属している岡田靖浩（53歳）氏を紹介する。入社以来約35年間、国内外のメーカーの多様な内燃機関の整備をされてきた岡田さんから、これまで業務上で起きた様々な出来事を中心に貴重なお話を伺った。

## 1. 業務経歴

岡田さんは昭和55年に栃木県立宇都宮工業高校を卒業後、ヨシダ・テクノの前身である吉田自動車商会に入社した。「電子科の出身なのですが、自動車がとても好きだったものですから、エンジン専門の希有な会社を学校から紹介され、入社しました。」

入社当時の会社事業は、自動車のエンジン整備が大半であった為、岡田さんも整備士として、先輩社員の指導の下、主にシリンダーヘッドの整備を担当した。「若手の頃は様々なメーカーのエンジン整備をしました。昔は種類が豊富で結構大変でしたが、現在の整備士としての基礎になっています。」

入社直後に自動車整備士の免許を取得し、その後発電機用エンジンの整備を行う為、平成12年に自家発電設備専門技術者（KとMの二部門）の資格と併せて、特種電気工事士の資格も取得した。平成22年度に国土交通大臣顕彰による建設マスター（機械器具設置工）を受賞した。

## 2. 発電機用エンジンの整備

入社15年目の平成7年に、会社としては初となる

発電機用エンジンの換装工事を受注。その後、電機メーカーより常用発電装置のメンテナンス業務を受注してからは、発電機用のディーゼル及びガスエンジンの整備を行うことになった。主に小松製作所製ディーゼルエンジンの整備を行っていた。

平成14年に岡田さんに転機が訪れた。会社が、株式会社日立エンジニアリング・アンド・サービス（現：株式会社日立パワーソリューションズ）と常用発電機保守契約を締結した。これに伴い、GEイエンバッハ製ガスエンジンの整備を一手に引き受けることになったのである。

平成18年及び平成26年の2度にわたり、同エンジンの整備技術を本格的に習得する為、GEイエンバッハ社が主催するオーストリアでのトレーニングプログラム（技術研修）を受講した。「座学と実習で構成される2週間のプログラムでした。整備用実習機



自社工場に運び込まれたイエンバッハ製エンジン

はタイプ4とタイプ6と呼ばれる1,000kW超のガスエンジンでした。」

それ以来、岡田さんはイエンバッハ製のエンジン整備を900件以上手掛けている。特にタイプ6と呼ばれる、日本に導入されているエンジンでは1気筒あたりの排気量が最も大きいタイプのオーバーホールは、東日本地区では岡田さんらが初めて手掛けた。ドイツのリープヘル社の発電機用エンジンの整備や、フランスのブガッティ社のクラシックエンジンのシリンダー加工も手掛けたことがある。

欧州製のエンジンの特徴を尋ねてみた。「外国製は専用工具でなければ分解出来ない仕組みが多いです。自ら治具を製作対応しています。」

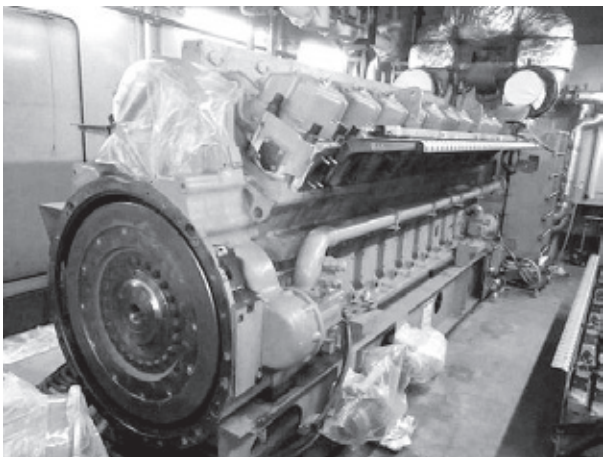


### 3. 設置現場にて

岡田さんが設置やメンテナンスを手掛けるエンジンは、大型のものばかりである為、納入施設も大規模物件がほとんどである。空港施設に導入されているガス機関駆動常用発電設備（発電機出力2,430kW×2基）を整備する為、遠方まで赴くこともある。

また、大手ビール会社では、各工場に設置された発電機のエンジンのメンテナンスを、発電機メーカーを介して、一手に請け負っている。その為、月の3分の1は出張で全国各地の設置現場の間を飛び回っている。

設置現場での整備作業は、大型点検の場合、4～



大手ビール工場にて整備中のエンジン

5名のチームを組んでの共同作業となる。岡田さんは責任者として全体を統括する立場にある。「ガスエンジンはご存じのとおり燃料が目に見えないので、燃料漏れや未燃焼による事故が非常に怖いですね。」

### 4. 後進への助言

現在、技術部次長として、社員の整備技術全般を指導する立場にある岡田さんに、社員を指導するうえで心掛けていることを尋ねた。「現場作業がほとんどを占める職場環境では、実践を重んじるあまり、逆に知識が疎かになりがちです。そのため、エンジンメーカーの技術書を基に、座学での社内勉強会を比較的閑散期である7～9月に集中的に行っています。もちろん複数の実習機を用いて実技指導も行っています。」

また、技術・技能以外の面でのお話も付け加えられた。「少人数でエンジンの分解から、検査、加工、組立まで一貫して行う訳ですから、とにかくチームワークが大事です。現場の職長として作業中の声掛けは頻繁に行っています。」



社内研修風景（左から二人目が岡田さん）

ヨシダ・テクノでは、平成19年に内発協推薦により、石下芳廣さん（受賞当時：技術部長）が建設マスターを受賞している。建設・自家発業界における同社に対する社会からの評価は高い。「もともと機械いじりが好きなんです。ですのでエンジン整備はまさに天職ですね。趣味と仕事が合致している部分はあります。結果として好きな仕事を通じて社会に貢献できれば、幸いです。」

◆  
プライベートでは3台の英国車を所有する大の自動車好きの岡田さん。高度なエンジン整備技術を頼りに、クラシックカーのエンジンのレストア依頼も受けるなど、自他共に認めるエンジン整備のプロフェッショナルとして、今後も内燃力発電設備の安全を見守り続けてくれるであろう。